

研究課題の名称

日本外傷データベースへの外傷患者登録と登録データを用いた臨床研究

研究の目的及び意義

外傷の診療の質を向上させるために診療データを活用するためには、現在行われている診療とその結に関するデータを全国規模で広く集積し、分析を行うことが重要となる。それにより、各施設のアウトカを全国の施設から集積されたデータと比較することが可能になり、さらに大規模データを用いることで療行為とアウトカムとの関連を明らかにすることが可能となる。そこで日本救急医学会診療の質評価標に関する委員会と日本外傷学会トラウマレジストリ検討委員会が中心となり日本外傷データバン

(JTDB)を構築した。なお、JTDBの実質上の企画-運用は日本外傷学会トラウマレジストリ検討委員会が行っている。各施設における診療の現状を明らかにし、診療の質向上に寄与することができる。さらに集積された全国データを分析することで、どの診療行為が予後を改善するか明らかにすること、診断度の向上、予後予測指標の作成などの研究を実施することにより外傷診療システム全体の向上に寄与することが期待される。

研究対象者の選定方針

【選定基準】

- ・日本外傷データベースへの参加登録した医療施設(添付資料参照)を受診した外傷患者
- ・Abbreviated Injury scale(ALS)重症度スコア3以上の外傷を有するもの(ただし、各施設の判断によりAIS重症度スコアが3未満のものを登録することもできる)
- ・搬送時に心肺停止の場合も含む

【除外基準】

- ・患者または家族がデータの利用を拒否した場合

研究予定期間承認日(2020年3月30日)から西暦2023年3月31日